
水生生物と水質について

谷 幸三（大阪産業大学人間環境学部生活環境学科）

水生生物はきれいな水を好む生物と汚れた水を好む生物に大別される。

この性質を元に汚水生物系列として、貧腐水性（きれいな水）、 β —中腐水性（少し汚れた水）、 α —中腐水性（汚れた水）、強腐水性（大変汚れた水）の四段階に分けられる。

これら汚水生物系列の指標生物には種数が多すぎて一般的でないことから、一般の人にもわかりやすい肉眼的動物の種数と方法を改良したのが、故津田松苗先生の提唱されたベック津田法（ α 法と β 法がある）である。

これでも一般の人には難しいということで、生物指標種をかぎられた種数にして、全国一斉に調査する方法として、水生生物による簡易水質調査法を環境省と国土交通省が、リバーウォッチングとして、学校教育の環境学習や総合学習、社会教育として行政や環境市民団体に普及している。

私はリバーウォッチングの自然観察のテキストとして、独自の総合判定法の「水生生物自然観察ガイド」を作成している。これは、大和川水系の小学校にもリバーウォッチングのテキストとして、採用されていて大変好評である。また、リバーウォッチングのゲストティーチャーの講師で出かけた時にも利用している。

今回の講座では、水生生物と水質、水生昆虫の分類法と大和川で40年前より調査している生物と水質との関わりについて講義をする。

谷 幸三：水生昆虫の観察—安全できれいな水をめざして,トンボ出版(1995年)

谷 幸三：水生生物自然観察ガイド,国土交通省大和川河川事務所（2008年）